

兵器被服貸與延期ノ件御願

神奈川縣鎌倉郡大船町大船五六〇

松竹大船搬影代表

辻



陸軍大臣 畑 俊 六 閣下

右ハ四月廿八日陸普第二七八二號ヲ以テ貸與相受ケ候兵器被服搬影ノ都合上尙引續キ七月卅日迄貸與方延期御許可相成度此段及御願候也

昭和十五年六月廿八日

兵器被服貸與延期ノ件御願

神奈川縣鎌倉郡大磯町大磯五六〇

松竹大船撮影所代表 謹啓

陸軍大臣 畑 俊 六 閣下

右ハ五月二十日附陸普第三四一六號ヲ以テ貸與相受ケ候兵器被服撮影ノ都合上尙引續キ七月卅日迄貸與方延期御許可相成度此段及御願候也

昭和十五年六月八日

兵器貸與延期ノ件御願

神奈川縣鎌倉郡大船町大船五六〇

松竹大船撮影所表 辻








陸軍大臣 畑 俊六 閣下

右ハ五月廿二日附陸普第三三八一號ヲ以テ貸與相受ケ候兵器
撮影ノ都合上尙引續キ七月卅日迄貸與方延期御許可相成度此
段及御願候也

昭和十五年六月廿八日

十年
決裁指定
局長
決行指定
第一六二號

大房官臣 了結 昭和 七月五日	領受 昭和 七月三日	提出 昭和 十五年七月三日	領受 昭和 年 月 日	番號 防衛第 三〇三 號	<h2 style="margin: 0;">大臣委</h2>	受領番 老第 三二六六 號	件名 航空許可ニ関スル件	參與官 回付 決裁前 連帶 課名 航空本部
(決裁)行決 覽回後		連帶 長局			局長 	政務 次官	起元應(課)名 大改每々新南北	
長局		長局			高級 副官 	參與官		
長課		長課			主務 課長 	書記官	決行(決裁)後 回覽課名	
長課		主務 課員 			主務副官 官房御用掛 	審案 筆記者		

陸軍

陸普 副官ヨリ出願人へ通牒(通牒内容多し添付中)

七月十一日附出願旨題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行

規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

追テ外地ニ於ケル航空ニ関シテハ凡ソ受ケテラレ度

陸普第四五六號 昭和三十五年七月三日

二四〇号

大改市北邑之島上ニ于リテ有地

大改市 新南化

一行 爲

新南揚我甲寫真寫輪輸送ノ為ノ航空

一、場所(區域)

東京一大阪一福岡一蘇州一上海一天津、京城一奉天、

一、本證有效

自昭和十五年七月三十一日 至昭和十五年八月三十一日

一、條 件

1. 本證は於て航空機ヲ飛航スルニ使用シ得ル
2. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ヲ連テ線ノ東方及南
才比三石炭比一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
3. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
4. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
5. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
6. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
7. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
8. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
9. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス
10. 本證は於て航空機ノ重量比一馬力子一トシテ此線石炭比ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ許ス

陸普

副官 東部 中部 西部 各防衛 各謀長 朝鮮 軍 團 東軍 各各 謀
長 支那 遺軍 總 謀 長 旅 順 軍 團 司令 官 へ 通 達 中

首 題 = 南 スル 件 別 紙 甲 紙 1 類 出 = 對 乙 紙 1
通 達 可 セ ラレ タル = 付 依 命 通 達 中

陸普第四五六四號

昭和十五年七月三日

陸軍



航空許可願

昭和十五年六月十一日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

株式會社每日新聞社

取締役社長 奧村信太郎

陸軍大臣 畑俊六 殿

左記ノ通航航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可成
成度候也

左記

目的

新聞掲載用寫真原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間

自昭和十五年七月一日
至昭和十五年十二月卅一日

三、航空路

(イ) 東京 - 大阪 - 京城 - 大連 - 天津、(ロ) 京城 - 奉天 - 新京 - 哈爾濱 - 齊々哈爾 - 滿洲里、(ハ) 大連 - 奉天、(ニ) 奉天 - 天津、(ホ) 奉天 - 北京、並ニ以上ノ復路航程

四、航空機ノ種類

飛行機 五機

機體ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロックヒード式アルテア型	ワスプ式五二五馬力壹箇	J-1BADU
2. パーシバル式ガル型	ジブシー式一八〇馬力壹箇	J-1BASO
3. ビーチクラフト式〇二七型	ライトホワールウインド式二八五馬力 壹箇	J-1BAOH
4. 九七式司令部偵察機型	九四式五五〇馬力 壹箇	無、日ノ丸記號
5. 三菱式双發輸送機型	金星式九〇〇馬力 貳箇	J-1BAOI

其乗員ノ氏名並ニ乗員ノ技倆證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士 大藏 清三

陸軍

一等飛行機操縦士

吉田重雄

二等飛行機操縦士

黒岩伊藤

一等飛行機操縦士

志鶴忠夫

一等飛行機操縦士

大牧準四郎

航空機機關士

八百川長作

一等無線通信士

下川重夫

二等無線通信士

福田重順

同乘者

古泉順平

同乘者

布施德司

同乘者

小島純一

同乘者

佐木始次

同乘者

加藤幾太郎

大連市北區

大連市北區

六乗員ノ住所

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪 每日新聞社 (各通) 以上

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
...

(小林又七印行)

六月十一日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

追ツテ外地ニ於ケル航空ニ關シテハ現地軍ノ許可ヲ受ケラレ度許可證

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地
大阪毎日新聞社

行所(區域)爲

新聞掲載用寫眞原稿輸送ノ爲ノ航空
東京—大阪—福岡—蔚山—大邱—京城—大連—天津、京城—奉天、大連—奉天

本證有效

自昭和十五年七月三十一日
至昭和十五年十二月三十一日

條件

1. 本航空ニ於テ寫眞機、双眼鏡類ノ使用ヲ禁ス
2. 關東州ニ於テハ董家屯—馬橋子屯—柳樹屯部落北端—石家屯ヲ連ヌル線ノ東方及南方並ニ石家屯—韓家屯—營城子驛—養龍尾屯ヲ連ヌル線ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ禁ス
3. 旅順要塞以外ノ各要塞地帯及其ノ他ノ航空禁止地域(平壤、奉天)並ニ蔚山灣、大邱間ヲ除ク)上空ノ航空ヲ禁ス
4. 關東州ニ於ケル航空高度ハ三百米以下トス
5. 取締ノ爲ニ必要アリト認ムル場合ハ陸軍官憲ヲ搭乘セシメ若ハ本條件ヲ變更シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

麹町憲兵分隊長 第七八號

意

見

書

昭和十五年六月十四日

麹町憲兵分隊長 平林茂樹

麹町憲兵分隊長印

陸軍大臣

畑

俊六

殿

東京市麹町區有樂町一、二

東京日日新聞社

取締役社長

奥村信太郎

右者別紙ノ通り軍機保護法施行規則第
五條ニ基キ航空許可方願出ルニ付許
可可然キモノト思料ス



航空許可

昭和十五年六月十一日



大阪府北區堂島上二丁目三十六番地

株式會社大阪每日新聞社

取締役社長 奥村信太郎



陸軍大臣 畑俊六 殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

左記

一、目的

新聞掲載用寫眞原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間

自昭和十五年 七月 一日
至昭和十五年十二月卅一日

三、航空 路

(イ) 東京 〓 大阪 〓 京城 〓 大連 〓 天津、(ロ) 京城 〓 奉天 〓 新京 〓 哈爾濱 〓 齊々哈爾 〓 滿洲里、(ハ) 大連 〓 奉天、(ニ) 奉天 〓 天津、(ホ) 奉天 〓 北京、並ニ以上ノ復路航程

四、航空機ノ種類

飛行機 五機

機体ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロツクヒード式 アルテア型	ワスプ式五二五馬力壹箇	J-1 B A U O
2. パーシバル式 ガル型	ジブシー式一八〇馬力壹箇	J-1 B A B O
3. ビーチクラフト式〇一七E型	ライトホワイルウイソンド式二八五馬力 壹箇	J-1 B A O H
4. 九七式司令部偵察機型	九四式五五〇馬力 壹箇	無、日ノ丸記號

三菱式 双發輸送機型 金星式九〇〇馬力 貳箇 J-BAOI

五乘員ノ氏名並ニ乘員ノ技術證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士 大藏 清三
一等航空士 吉田 重雄

二等飛行機操縦士 黒岩 伊藤
二等航空士 志鶴 忠夫

一等飛行機操縦士 大牧 準四郎

航空機機關士 八百川 長作

下川 一

一級無線通信士 福田 重夫

二級無線通信士 古泉 順平

同乘者 布施 徳司

六乗員ノ住所

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日新聞社 (各夫通)

以上

小島 純一

佐々木 始次

加藤 幾太郎

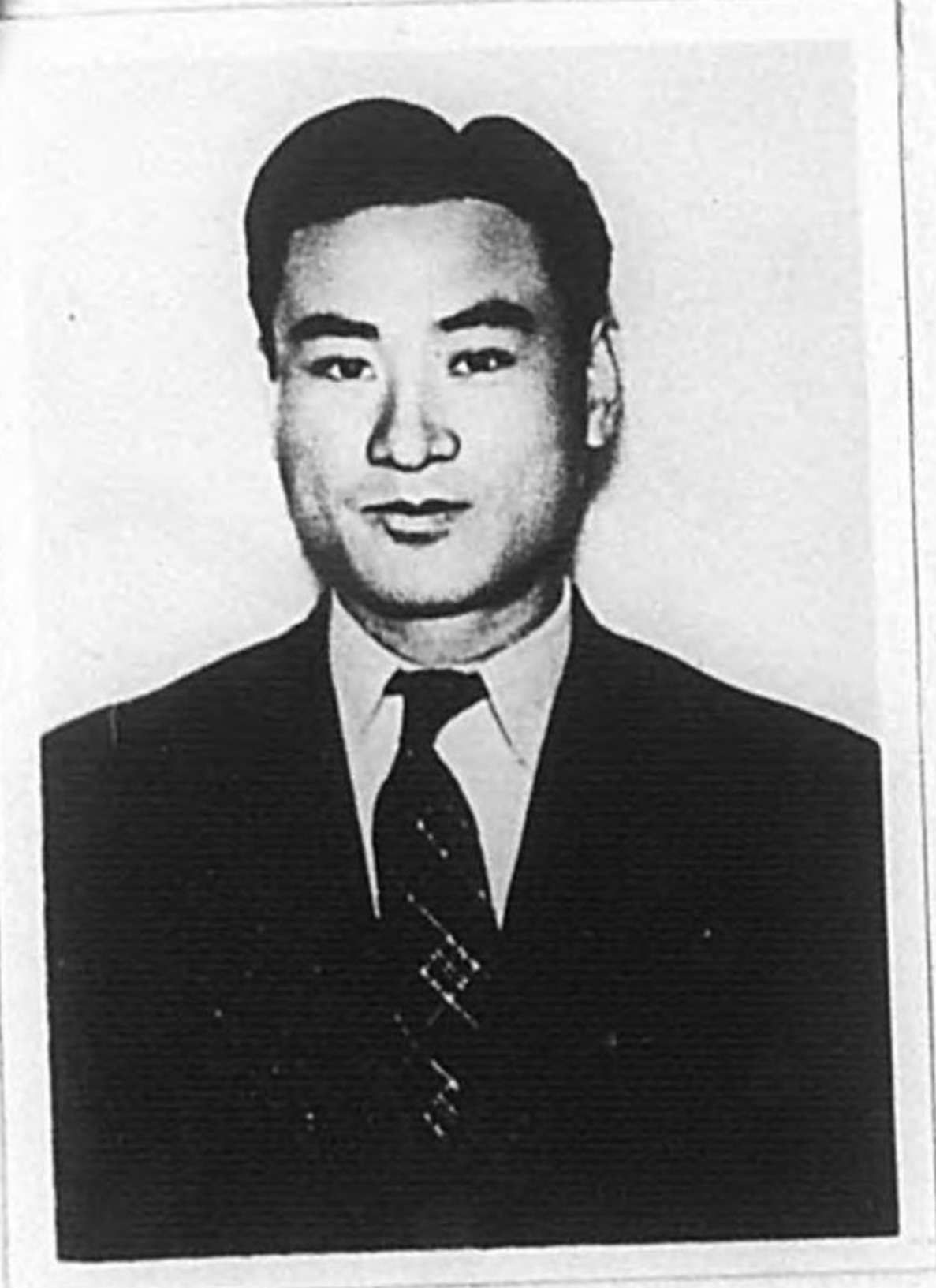
吉田 重雄

大野 新一

五乗員ノ住所

三乗員ノ住所
金沢友成 〇〇〇〇
LIBRARY

乘員寫真



同

吉

田 右

重

雄

一等飛行機操縦士

大

藏

清

三



同

志

鶴 右

忠

夫

一 等 飛 行 機 操 縦 士
二 等 航 空 士

黒

岩

伊

藤



航空機機關士
八百川長作



一等飛行機操縦士
大牧準四郎



一級無線通信士
福田重夫

同
右
下川
一



同
乘者
布施德司

二級無線通信士
古泉順平

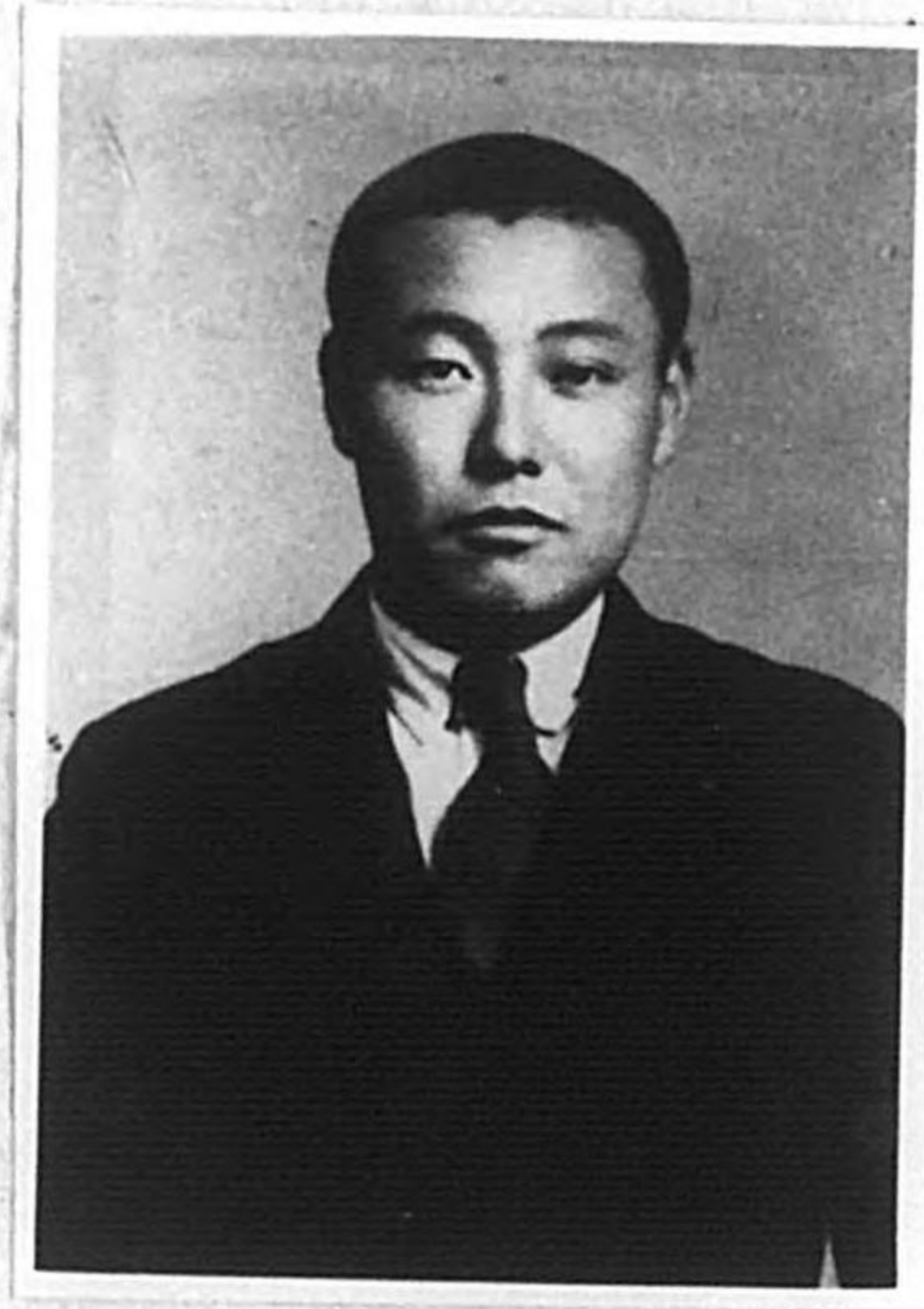


同

同

佐
々
木
始
次

小
島
純
一



同

加
藤
幾
太
郎

右



空監第一〇二六號

昭和十五年七月一日

航空局長官

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村 新太郎 殿

日滿通信連絡飛行ニ關スル件

昭和十五年五月十三日附ヲ以テ願出ニ係ル右件左記條件ノ下ニ本年七月一日ヨリ向フ一ケ年間期間延長方許可セラレタルニ付了知相成度

記

一 滿洲國內ニ於ケル航空路ハ左記ニ依ルヘシ

イ、新義州、奉天、新京、大平庄、哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里ヲ

遞信省 (甲)

連ヌル線

但シ本溪湖、撫順各停車場ヲ中心トスル半徑六柝以內及平房停車場ヲ中心トスル半徑十三柝以內ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

ロ、奉天、大連ヲ連ヌル線

但シ鞍山停車場ヲ中心トスル半徑六柝以內ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

ハ、奉天、錦州、山海關ヲ連ヌル線

ニ、奉天、朝陽、承德、古北口ヲ連ヌル線

ニ特別軍事地域内（齊々喀爾、滿洲里間）ノ飛行實施ニ際シテハ其ノ都度豫メ關東軍司令官及海拉爾安井部隊長ニ届出ツヘシ

三往復共奉天飛行場又ハ新京飛行場ニ於テ税關ノ検査ヲ受クヘシ
之カ爲奉天又ハ新京税關ニ豫メ發着時間ヲ通報スヘシ

四本飛行實施ニ際シテハ其ノ都度豫メ關係飛行場長及航空所長宛發

遞信省

(甲)

着時間ヲ届出ツヘシ
其ノ他ノ事項ニ關シテハ一般法規ヲ遵守スヘシ



日滿飛行許可期限延長願

昭和十五年五月十三日

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

大阪毎日、東京日日新聞社

取締役社長 奥村信太郎

逓信大臣 勝 正 憲 殿

昭和十四年六月二十九日附空監第四九〇號ヲ以テ御許可被下候日滿通信
連絡飛行ニ關スル許可期限ハ本年五月末日滿了可仕候ニ付イテハ引續キ
左記ニヨル連絡飛行御許可被下度此段及御願候也

記

一、目的 新聞掲載用寫眞原稿輸送ノ爲ノ航空

二、航空實施期間 自昭和十五年六月許可ノ日ヨリ至昭和十六年六月卅日

三、航空路 (イ) 東京―大阪―福岡―京城―大連―天津

(ロ) 京城―新義州―奉天―新京―哈爾濱―齊々哈爾―

滿洲里

(ハ) 奉天―大連 (ニ) 奉天―天津 (ホ) 奉天―北京

並ニ以上ノ各復路航程

四、航空機ノ種類

飛行機 五機

機体ノ型式	發動機ノ型式及馬力	國籍及登録記號
1. ロックヒード式 アルテア型	ワスプ式五二五馬力壹箇	J-1 B A U O
2. ハーシバル式 ガル型	ジプシー式一八〇馬力壹箇	J-1 B A S O

3.	九七式司令部偵察機型	九四式五五〇馬力 壹箇	無、日ノ丸記號
4.	三菱式 双發輸送機型	金星式九〇〇馬力 貳箇	J-1 B A O I
5.	ビッチクラフト式C-17E型	ライトホワールウインド式二八五馬力 壹箇	J-1 B A D H

五乗員ノ氏名並ニ乗員ノ技倆證明及免狀ノ種類

一等飛行機操縦士	大藏 清三
一等航空士	
一等飛行機操縦士	吉田 重雄
一等航空士	
一等飛行機操縦士	黒岩 伊藤
二等航空士	
一等飛行機操縦士	志鶴 忠夫
二等航空士	
一等飛行機操縦士	大牧 準四郎
航空機 機關士	八百川 長作
	下川 一
一級無線通信士	福田 重夫

二級無線通信士

古泉 順平

同乗者

布施 徳司

同乗者

小島 純一

一等無線技師

佐々木 始次

二等無線技師

加藤 幾太郎

三等無線技師

黒田 伸

無線技師

吉田 寛

無線技師

大畑 清三

正乗員は凡そ並ニ乗員ノ好耐強弱ハ後述ノ如シ

三 三 三

方二八百圓代

LIBRARY

三 三 三

金屋方式〇〇圓代

LIBRARY

三 三 三

方四五五〇圓代

LIBRARY

號 七 一 第 原 局長 十年 保存期限 決裁指定

拾年保

大臣委		件名 外國船舶不南境出入之件	受領番號	政務次官 回付 決裁前後一連帶 參與官
局長	次官委		領號	
主務局長	高級副官	參與官	受領	決行(決裁)後 回覽課名
主務課長	主務副官		提領	
局長	主務課員	主務課長	了結	陸軍
局長	主務課員	主務課員	領受	
局長	主務課員	主務課員	出提	陸軍
局長	主務課員	主務課員	領受	
局長	主務課員	主務課員	了結	陸軍
局長	主務課員	主務課員	領受	

番號 防衛甲第 三〇五 押
昭和 五年 七月 三日
昭和 五年 七月 三日

七月五日

公

原

部

陸

軍

端

陸軍

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒(海州黄梅道海州支店送付由)

七月二十七日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

陸普第四五六六號

昭和五年七月三日

許可證

二四二号

朝鮮黄梅道海州支店東艾里山支店地

朝鮮マメント株式会社

一行 爲

瓜茨陸揚ノ船(順源株)出入

場所(區域)

朝鮮黄梅道海州港

本證有效間

自昭和十五年七月八日
至昭和十五年七月二十一日

一條 件

本署ニ提出官署ニシテ船内檢索完結物件ノ封印
ヲ為サシムルアリ

陸軍

陸軍省

別官海州憲兵道隊長へ電報

六月三十日附憲兵隊第一。二機。別申「順源機」出
入一機。七月八日ヨリ同三十日迄前同「條件」ヲ許
可セラルル命

陸軍省 一五九

リリス

841

昭和七年七月三日



海州憲兵第一〇三號

軍機保護法施行地域内外國船舶

出入許可願提出ノ件報告

昭和拾五年六月卅日

海州憲兵分遣



陸軍省 御中

軍機保護法施行規則等上條ニ基キ首題ノ
件別紙、如ク受理シタルニ付意見書ヲ付
提出ス

陸軍

意見見書

本籍山口縣宇部市筭四百四番地屋敷

住所朝鮮黃海道海州府東芝里四百三十一番地

朝鮮セメント株式会社

専務取締役 中 安 架 一

當 四十六年

右者別紙ノ通リ軍機保護法施行規則第十八條

ニ基キ外國船舶海州港出入許可方申請アリ

タルニ付調査シタル處左記ノ通リニシテ許可相成

可然ハモト恩料ス

左記

本籍任所職業
氏名 年令 願書ノ通リ

日時 全 右

區 域 朝鮮セメント株式会社海州工場棧橋

目的	願書ノ通リ
船國籍	滿洲國
船種	願書ノ通リ
本人經歷	大正七年東京高等工業學校卒業後 宇部セメント株式會社技師朝鮮セメン ト株式會社取締ヲ經テ現在ニ及ブ
教育各籍	東京高等工業學校卒業ニシテ思想 穩健ナリ
生活ノ狀態	資産約五十萬圓ヲ有シ上流ノ生活ヲ 営ム
前科ノ有無	ナシ
其他意見	本船舶ハ大連汽船株式會社ノ歸船 ニシテ主トシテ内地航路ニ使用セラレ在 リテ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ海州港

陸軍

ニ入港ニ回タルカ今般第三回目ノ入港ニ
シテ所有者國籍船籍港共ニ南洲
國ナルカ船長、機関長、事務長共ニ日
本人ニシテ前ニ回海州港入港ニ際シ憲
兵検査シタルカ何等モ容疑事實アリ
リキ
尚今工場ニ在リテハ前回ト同様関稅
法、特殊扱ヲ受テ又朝鮮總督ヨリ
特新見狀ヲ下附セラレアリ

一了

昭和拾五年六月卅日

海州憲兵分遣隊長竹中友行



陸軍大臣

畑

俊

大蔵

昭和十五年六月二十七日

陸軍省 領 壹第 三三三 号



大連汽船株式會社代理店

陸軍大臣

畑 俊 六 殿

外國船入出港許可願

左記ノ通滿洲國汽船黃海道海州港ニ入出港致度軍機保護法施行規則ニ依リ
御許可相成度別紙朝鮮船令ニ依ル許可證寫相添エ此段及御願候也

記

一 目的 弊社セメント製造用石炭約二、〇〇〇噸機械類約四〇〇

專務取締役

中安閑



噸ヲ積載シ字部ノ海州間ヲ運搬陸揚ノ爲

三船名	順源號
四船種	汽船
五國籍	滿洲國
六船籍港	營口
七總噸數	一、六一〇噸〇三
八船主ノ氏名及國籍	水源輪船公司 滿洲國
九備置者ノ氏名及國籍	大連汽船株式會社 大日本
十船長ノ氏名及國籍	猶井幸吉 大日本
十一碇泊豫定期間	自昭和十五年七月五日 至昭和十五年七月廿日 十六日間

第特一三一號

特許免狀

一、船種及船名 汽船 順源號

一、船籍地 營口

一、船主氏名及國籍 永源輪船公司 滿洲國

一、借船者氏名及國籍 大連汽船株式會社 大日本

一、總噸數 一、六一〇噸〇三

一、寄港地 海州

一、目的 石炭及機械類運送業務

一、期間 自昭和十五年七月八日
至昭和十五年七月廿日

右不開港場ニ寄港シ敢ニ寄港地ト字部間ニ於テ物品ノ運送ヲナスコトヲ特許ス

但シ必要アリト認ムル場合ハ前記ノ期間内ト雖モ特許ヲ取消スコトアル

ヘシ

昭和十五年六月二十八日

朝鮮總督

官

次

郎

「印」

履 歴 書

本籍地 大阪市港區市場通一丁目拾番地
現住所 大連市熱田町參拾九番地

猶 井 幸 吉

明治二十七年九月十四日生

一 免狀種類 汽船乙種免狀第一七五六號

一 船長ノ經歷

- 1 昭和九年七月汽船利成號船長トシテ乗船全十年八月下船
- 2 昭和十年八月汽船北平號船長トシテ乗船全十一年七月下船
- 3 昭和十一年七月順源號船長トシテ乗船現在ニ至ル

以 上

大臣委	大臣委	次官	次官	政務	政務	政務	政務
局長	局長	主務	主務	主務	主務	主務	主務
副官	副官	主務課長	主務課長	主務課員	主務課員	主務課員	主務課員
主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官
書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官	書記官
審案	審案	審案	審案	審案	審案	審案	審案
筆記者	筆記者	筆記者	筆記者	筆記者	筆記者	筆記者	筆記者

房官臣大	課局務主	件名	受領	政務次官	參與官
了結	領受	出提	領受	號領	回付
昭和 年	昭和 年	昭和 年	昭和 年	號領	決裁
七月	七月	七月	七月	三三三八	後
日	日	日	日	八	課名
(裁決)行決	帶連	外國船舶不周港出入之件	連	起元廳(課)名	決行(決裁)後
覽回後	長局	件	長局	朝舞セメト令	回覽課名
長局	長局	件	長局	朝舞セメト令	長課
長課	長課	件	長課	朝舞セメト令	長課

拾年保

陸軍

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒(海州黄毛不逞隊使用)

六月二十日 日附出願旨題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行

規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

陸普第四五六五號

昭和五年七月三日

奉山

第三四一号ノ許

可證

朝鮮黄毛不逞隊海州府東艾里山共番地

朝鮮セメント株式会社

一行 爲

不炭汽揚ノ爲ノ船舶(氷涼押)出入

一、場所(區域)

朝鮮黄毛不逞隊海州港

一、本證有效

自昭和十五年七月九日
至昭和十五年七月十九日

一、條 件

所要ニ應ジ官署ヲシテ船舶ノ檢索、定疑物件ノ封印ヲ

名ヌコトアリ



海州憲臺第一〇四號

軍機保護法施行地域内外國船舶
出入許可願提出、件報告

昭和拾五年六月卅日

海州憲兵分遣



陸軍省

御中

軍機保護法施行規則第十一條ニ基テク首類
ノ件別紙ノ如ク受理シタルニ付意見見書白添
付提出ス

陸軍

意見見書

本籍 山口縣宇部市第四番地屋敷

住所 朝鮮黃海道海州府東芝里四百三十番地

朝鮮セメント株式会社

専務取締役 中 安 閑

参 四十六年

右者別紙通り軍機保護法施行規則第十一
條ニ基キ外國船舶海州港出入許可ヲ申請
アリタルニ付調査シタル處左記ノ通りニシテ許
可相成可然モノト思ハ料ス

左記

本籍住所
姓名
年令

願書ノ通り

日

時

全 右

區

域

朝鮮セメント株式会社海州工場棧橋

目的	船舶國籍	船舶總噸數	本人經歷	教育及思想	生活狀況	前科の有無	其他意見
願書ノ通リ	滿洲國	願書ノ通リ	大正七年東京高等工業學校卒業後 宇部セメント株式會社技師朝鮮セ ント株式會社取締ヲ經テ現在ニ及 東京高等工業學校卒業ニシテ田中 穩健ナリ	資産約五十萬圓ヲ有シ上流ノ生計ヲ 營ム	ナシ	本船舶ハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ海州 港出入四回ニシテ今般等五回目ノ入港 ナルカ所有者國籍船舶籍港地ニ滿洲	

陸軍

國ニシテ事麦後大連汽船株式會社ノ
備航トシテ雇備セラレアルモノナルカ船
長、機關長事務長共ニ日本入ニシテ前
四回海州港入港ニ際シ憲兵檢索シタル
カ何等容疑事實ナカリキ又朝鮮セメン
ト株式會社ニ於テハ三前同ト同様閱視
法ノ特殊ノ扱ヲ受ケ入港ニ際シテハ朝
鮮總督ノ入港特許免狀ヲ下附セ
ラレアリ

一了

昭和拾五年六月卅日

海州憲兵分遣隊長竹中友行



陸軍大臣

畑

俊

六

殿

昭和十五年六月二十六日

領省 壹第 三二三 號



海運部 海州府東支屋山貳番地
大連汽船株式會社代理店

朝鮮セメント株式會社

專務取締役

中安閑



陸軍大臣

畑 俊 六 殿

外國船隻出入出港許可願

左記ノ通滿洲國汽船實海運海州港ニ入出港致度軍機保護法施行規則ニ依リ
御許可相成度別紙明瞭船令ニ依ル許可證寫相添ヒ此致及御願候也

記

一 目 的 弊社セメント製造用石炭二、三〇〇噸ヲ積載シ三連ノ港

州間運搬臨時ノ爲

三 船 名 水 源 號

四 船 種 汽 船

五 國 籍 滿 洲 國

六 船 籍 港 滿 洲 國 營 口

七 總 噸 數 壹 千 七 百 參 拾 壹 噸 六 八

八 船 主 / 氏 名 及 國 籍 水 源 輪 船 公 司 滿 洲 國

九 備 載 者 / 氏 名 及 國 籍 大 連 汽 船 株 式 會 社 大 日 本

十 船 長 / 氏 名 及 國 籍 山 崎 岩 助 大 日 本

十一 航 行 期 間 自 昭 和 十 五 年 七 月 九 日 至 昭 和 十 五 年 七 月 十 九 日 十 一 日 間

第特一三〇號

特許免狀

一 船種及船名 汽船 水源號

一 船籍港 營口

一 船主ノ氏名及國籍 水源輪船公司 滿洲國

一 船積者ノ氏名及國籍 大連汽船株式會社 大日本

一 總噸數 壹千七百拾壹噸六八

一 寄港地 海州

一 目的 石炭運送業務

一 期間 自昭和十五年七月五日
至昭和十五年七月廿日

右寄港地ト内地間ニ於テ物品運送ヲ爲スコトヲ特許ス

但シ必要アリト認ムル場合ハ前期ノ期間内ト雖モ特許ヲ取消スコトアル

ヘシ

昭和十五年六月二十六日

明華總會

南

次

郎

「印」

第一九一號

決行指定

原

決裁指定

三年

保存期限

房官巨大		課局務主		大臣 委	件名 救護員昇給ニ關スル件	受領 番號	政務大官 回付 決裁前 後	
了結	領受	出提	領受			號番	壹第三〇七六號	連帶 課名
昭和 年 七月 六日	昭和 年 七月 一日	昭和 年 月 日	昭和 十一年 六月 二十六日			經第七六三號	起元處(課)名 日本赤十字社	決行(決裁)後 回覽課名
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長 主務	政務 次官			
局長		局長		局長 主務	政務 次官			
局長		局長		課長 主務	高級 副官			
局長		局長		主務課員	主務副官 官房 御用 計			
					書記官			
					審案 筆記者			

原

陸

軍

次官ヨリ日本赤十字社々長宛通牒案

「陸支普」

六月二十二日附救第五〇五號ニ依ル首題ノ件申請ノ通り認可セラレ
タルニ付依命通牒ス

陸支普第一三八六號

昭和十五年七月一日



秘

警



本

漢

支

陸軍省 壹第三〇七五號

救第五〇五號

昭和十五年六月二十二日

日本赤十字社副社長 公爵

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

救護員昇給ニ關スル件申請

今次支那事變ニ應召シ現在貴管下事變地若クハ病院船勤務ニ從事セ
ル本社救護員中附録詮衡標準ニ該當シ各配屬部隊長ヨリ推選相成候
別紙人員ニ對シ六月三十日附テ以テ各頭書ノ通昇給方認可相成度昭
和十四年陸支密第二三九達第一條但書ニ據リ申請候也

第 第

陸支密

別紙
陸支密
根本

昭和十五年六月二十四日
陸軍省 官廳

昭和十五年六月二十六日
陸軍省 官廳

昭和十五年六月二十五日
陸軍省 官廳

德川

因

順
社副社長

第 二 〇 二 號

保存期限 三年 決裁指定 局長任 決行指定 原

房官臣大		課局務主			大臣		件名	番受	政務次官 參與官 回付
了結	領受	出提	領受	號番	大臣	名			
昭和	昭和	昭和	昭和		大臣			連帶	
年	年	年	年		局長	次官	第五回全日本學生射擊選手權大會關スル件	課名	
七月六日	七月四日	月	月		局長	次官		課名	
(裁決)行決		帶			局長		起元廳(課)名	決行(決裁)後	
覽回後		長局			局長				回覽課名
長課		長課			防衛		全日本學生射擊聯盟	陸軍	
長課		情報			防衛				
		局長			高級副官		書記官		
		局長			主務副官		審案		
		局長			主務課員		審案		
		局長			主務課員		審案		

拾年保

陸軍

(陸普) 副官ヨリ全日本學生射撃聯盟會長宛回答案
六月三十日附首題大會ニ関スル願出ノ件認可
セラレタルニ付承知相成度依命回答ス

陸普第四五七九號

昭和五年七月四日

陸軍省後援名義使用方ノ件

(陸普) 副官ヨリ憲兵司令部總務部長京都憲兵
隊長(憲司經由)宛通牒案

未ル七月二十日京都市陸軍深草射撃場ニ於テ開
催ノ全日本學生射撃聯盟主催第五回全日本學
生射撃選手權大會ニ對シ陸軍省後援名義使
用方許可セラレタルニ付承知相成度依命通牒ス

陸普第四五七九號

昭和五年七月四日

第五回全日本學生射擊選手權大會開催ニ関スル件

(陸普) 副官ヨリ第十六師團參謀長宛通牒案

首題、件別紙寫、通シ京都府陸軍深草射擊場ニ於テ開催セララルルニ付陸軍大臣代理トシテ貴師團ヨリ關係官ヲ臨席セシメ祝辭ヲ代讀セシメラレ度依命通牒ス

追テ祝辭ハ貴師團ニ於テ準備相成度尚陸軍省後援名義使用方許可セラレアルニ付承知相成度申添フ

陸普第四五七九號

昭和三年七月四日



本學長

名儀(後援)使用許可願

東京市澁橋區百命三三九志學林内

全日本學生射擊聯盟

會長 公爵 一條實孝

昭和十五年六月三十日

今般本聯盟主催第五回全日本學生射擊選手權大會(末名)七月二十日於京都陸軍深草射擊場開催仕度同大會陸軍省後援名儀使用御許可相成度此段及御届候也

陸軍大臣畑俊六閣下



全日本學生射擊聯盟會長

本學長

陸軍省 領省 壹第 三〇六

陸軍大臣祝辭下附願

今般貴省並海軍省文部省後援本聯盟主催
第五回全日本學生射擊選手權大會、未_レル七月
二十日京都陸軍深草射擊場、於_レ開催致度候間
陸軍大臣祝辭、御下附相成度御願申上候也

昭和十五年六月三十日

全日本學生射擊聯盟

會長 公爵 一條實孝

陸軍大臣 畑俊六閣下



全日本學生射擊聯盟會長

第五回全日本學生射擊選手權大會訓辭閣下件申請屆

全日本學生射擊聯盟

會長公爵一條實孝

東京市池袋區百人町三九志學林内

本聯盟主催第五回全日本學生射擊選手權大會、未元七月十日
京都陸軍深草射擊場開催致事、決定致候、刻下非
常時之際、日頃射擊志、青年學生徒全國、一堂會、修練、
成果、競、入、洵、意義、深、事、存、立、候
就、右、本、大、會、實、施、際、陸、軍、大、臣、訓、辭、御、下、附、相、成、度
此、段、及、申、請、候、也

昭和十五年六月三十日

陸軍大臣畑俊六閣下

拜啓 時下向暑之候愈々御清祥之段奉賀候

陳者 本聯盟主催第五回全日本學生射擊競技大會ハ別紙要綱ノ通り來ル七月二十日
(土曜日)午前八時ヨリ京都市陸軍深草射擊場ニ於テ舉行致ス事ト決定仕候

今ヤ萬人周知ノ如ク世界史ハ大轉換ヲ行ヒ洋ノ東西ヲ問ハズ急激ナ創造的發展ガ行ハ
レ我ガ興亞聖業達成ニ益々重要ナル過程ニ入り獨リ皇軍勇士ノ御奮闘ノミナラズ正ニ
國民ノ舉ツテ難局打開ニ向ハザルベカラザル秋ニ御座候茲ニ日頃射擊道ニ志シ常ニ國
防精神ノ涵養ト日本精神ノ高揚トニ心掛ケ一致團結以テ事ニ當ルノ訓練ヲ致居ル青年
學徒ノ一場ニ會シ武技ヲ相競フハ誠ニ有意義ナル事ト存ジ候願ハクバ本大會實施ノ趣
旨ニ御賛同ノ上貴校優秀代表選手御差遣被下度此段御案内申上候

敬 具

昭和十五年六月

全日本學生射擊聯盟

全 關東支部

全 關西支部

全 東海支部

御中

第五回全日本學生射擊選手權大會規定

第一 要 綱

一、期 日 昭和十五年七月二十日(土曜日)小雨決行
 二、會 場 京都市陸軍深草射擊場(京阪電車師團前下車)
 三、申込ハ左記ニ依ル
 (一) 場 所 京都市上京區紫竹上梅ノ木町四七新美松雄氣付 全日本學生射擊聯盟關西支部
 (二) 期 限 申込ハ昭和十五年七月十日到着ノモノマデ有効トス尙射順ノ申告ハ七月十九日正午マデトシ以後射順ノ變更ハ認メズ(但正選手故障アル場合ニ限り補缺ヲシテ之ニ代ラシムル事ヲ得)

(三) 方 法 全日本學生射擊聯盟加盟校ハ一校ニ付四圓、以外ノ學生徒ハ一校ニ付八圓ヲ添ヘ提出スベシ
 四、競技ハ左記ノ方法ニヨリテ行フ
 (一) 使用銃 陸軍三八式步兵銃各自携行ノコト、銃ニハ補助装置或ハ改造ヲ施スヲ得ズ
 (二) 射距離 三〇〇米
 (三) 標 的 黑色固定圈頭の(昭和四年改正射擊教範)
 (四) 姿 勢 伏射(依託ヲ許サズ)
 (五) 發射彈 試射二發以內、(本射五發)但シ試射ハ一發ニ付一分ヲ超過セザルコト
 (六) 射 法 連續射擊(擊込ミ)
 (七) 射擊時間 試射ヲ終リタル後「本射始メ」ノ号令ヨリ射擊終了迄三分間(アト一分ヲ不言)トシ撃チ終ラザル殘彈ハ無効トス
 (八) 豫行演習(空撃) 射擊位置ニ於イテ「試射始メ」ノ号令後豫行演習ヲ行フヲ得ズ

五、競技參加資格 全國ノ高等專門學校以上ノ學校(附屬セル學部及ビ學校ヲ含ム)ニシテ選手ハ其ノ校ノ射擊部長或ハ配屬將校ノ推薦ニヨル者十名及ビ補缺二名(計十二名)トス

第二 競 技 實 施

六、射擊場ノ設備及標的ノ配當ハ別ニ之ヲ定ム
 七、小雨決行、參加者ハ午前八時迄ニ射擊場ニ集合スベシ
 八、已ムヲ得ザル事由アルトキハ大會委員ノ決定ヲ以テ競技ヲ中止若クハ變更スル事アルベシ
 九、射手ハ服裝ヲ正シ、射擊開始ニ先立チ銃腔内ノ檢査ヲ受ケ所定ノ位置ニツクモノトス
 十、彈藥ハ射擊位置ニ於テ受領シ、藥莢ハ射チ終タル時其位置ニ於テ返納スベシ
 十一、競技中銃彈藥或ハ標的ニ故障ヲ生ジタル時ハ審判長ノ判定ニヨリ試射一發本射五發以內再射スル事ヲ得
 十二、射擊ヲ終リタルモノハ所定ノ位置ニ戻リ交代係ヨリ銃腔内ノ檢査ヲ受ケタル後其ノ位置ヲハナルルモノトス
 十三、監的壕ニ於ケル示點ハ試射ハ點數及彈着點ノ方向ヲ本射ハ最高點ヨリ順次ニ點數ノミ行フ
 十四、團體競技ニ於ケル補缺ハ正選手ニ事故アリタル時ノミ射擊スル事ヲ得(コノ場合大會開會迄ニ申告スルモノトス)尙出場ニアタリ定員ニ滿タザル團體及ビ申告セザル選手ニ射擊セシメタル團體ハ失格トス

第三 審 査

十五、成績ノ順位ハ得點多キモノヲ上位トス、團體競技ニ於テ總得點同一ナル時ハ最下得點者ノ屬スル學校ヲ下位トシ尙同一ナルトキハ逐次之ニ準ズ
 個人成績ニ於テ同點者アル時ハ零點少ナキモノヲ上位トシ尙零點同數ナル時ハ逐次最下點ヨリ比較シ高點ノモノヲ上位トス、五發トモ同點ナルトキハ更ニ一發再射シ其得點ニヨリ之ヲ決ス、以下之ニ準ズ
 十六、一標的ニ彈着六發以上アリタルトキハ最高點ヨリ五發ヲ以テ其ノ射手ノ得點トス
 十七、射票ノ點數ト照合票ノ點數ニ差異ヲ生ジタル時ハ照合票ニヨルモノトス
 十八、審査ニ對シテハ一切抗議ヲ申込ム事ヲ許サズ
 十九、其他審査ノ要領ハ陸軍現行射擊教範ニヨリ審判長之ヲ決ス

第四 賞

二十、優勝校ニ陸軍大臣賞及副賞ヲ授與ス優秀校若干ニ賞ヲ授與ス
 廿一、個人ニシテ優秀ナル成績ノモノ若干ニ個人賞ヲ授與ス

第五 參加者心得

廿二、競技參加者ハ射擊場内ニ於テハ左記ノ事項ヲ遵守スベシ
 (一) 競技中大會ノ神聖ヲ曠スガ如キ行爲ヲナサザルコト
 (二) 服裝ハ制服其他見苦シカラザルモノナルコト
 (三) 彈藥ノ裝填抽出ハ定位置ニ於テ行フコト
 (四) 射擊位置以外ノ場所ニテ空撃ヲ行ハザルコト
 (五) 射擊ヲ行フ場合ノ外競技線内ニ立入ラザルコト
 廿三、前項ノ一ニ該當スルモノニシテ係員ノ制止ヲ肯ゼザルモノハ委員長ノ決定ヲ以テ退場ヲ命ズルコトアルベシ
 廿四、大會前ノ練習用彈ハ各校ニテ携行ノコト

全日本學生射擊聯盟

參加申込書

全日本學生射擊聯盟主催第五回全日本學生射擊選手權大會ニ參加可致候

昭和十五年七月 日

校名 _____ 責任者 _____
 住所 _____ 氏名 _____

全日本學生射擊聯盟關西支部御中

第一二號

工政

七月八日

拾年保

東京監督班經由
東京監督班立川在勤所經由
立飛庶發 3 第一二六號

陸軍省
昭和十五年六月十五日
航空本部

昭和十五年六月十一日

定款變更御届

陸軍省
第一九七二號

昭和十五年六月十八日
陸軍省
15.6.18

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

川飛機株式會社
專務取締役 横山 虎三郎

弊社儀第三十回定時株主總會ニ於テ別冊ノ通り定款變更致シ候ニ付
昭和十三年陸軍省令第三十四號第七條ニ依リ及御届候也

別冊 当課保管
(監査課)

陸軍省
經由庶第五五號
昭和十五年六月十七日

川飛行機株式會社

航空本部
15.6.15
受付

陸軍省
15.6.18
工政課

陸軍省
15.6.20
監査課

第二二號



決行指定

局長委任

決裁指定

十年

保存期限

房官臣大		課局務主		大臣 委	件名 戰時下ノ育兒展覽會後援ニ關スル件	番號領 壹第三〇九七號	政務次官 回付 決裁前後連帶 參與官	起元廳(課)名 戰時下ノ育兒展覽會
了結	領受	出提	領受					
昭和 年	昭和 年	昭和十五年 七月 四日	昭和十五年 七月 一日	衛審第四六號				
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長	局長			
長課		長課		主務局長	次官	政務次官	參與官	
		情報部 軍務		課長	高級副官			
				主務課員	主務副官	書記官		
					官房御用掛			
						審案		
						筆記者		



陸軍

陸 普

副官ヨリ戦時下の育兒展覽會長宛通牒案

六月二十五日附當省大臣宛願出相成タル戦時下ノ育兒展覽會開催ニ關シテハ後援ヒラルルコトニ相成候ニ付諒承相成度候

追テ印刷物等ニ「陸軍省後援」ノ文字使用ヒラルルモ差支無之申添候

陸普第四五九四號

昭和五年七月四日

副官ヨリ憲兵司令官へ通牒案

來ル七月二十日ヨリ八月四日迄日本橋高島屋ニ於テ日本育兒展覽會開催ニ際シ印刷物等ニ「陸軍省後援」ノ文字使用方許可サレタルニ付通牒ス

陸普第四五九四號

昭和五年七月四日



衛生

情報

振南



陸軍省第三〇九七

昭和拾五年六月貳拾五日

後援可然意見

陸軍省情報部

陸軍大臣 畑 俊六 閣下

部長 太郎



萬邦無比、光輝アル紀元二千六百年ヲ迎ヘルニ當リ今次聖戰ノ大使命タル新東亞建設モ第四年ニ入り今ヤ人的資源ノ擴充ハ現下ノ一大急務ナリ

茲ニ左記要項ニヨリ「戰時下ノ青兒展覽會」ヲ開催イタシ青兒思想ノ一般普及並ニ正シキ育兒法ヲ展示シ以テ強健ナル第二國民ノ獲得ヲ計ルヲ目的トス



一名	二名	三名	四名	五名
戰時下の育兒展覽會	日本兒童愛護聯盟	昭和拾五年七月貳拾日ヨリ八月四日マデ	東京日本橋高島屋ニ於テ	東京日本橋高島屋
務	備	期	場	所

就テハ右趣旨ニ御賛同ヲ賜リ格別ノ恩召ヲ以テ御後援相賜度此段及ビ御願候也

陸海
厚生
文部

育兒展覽會計畫案

一 名稱

戰時下の育兒展覽會

一 主催

日本児童愛護聯盟

一 後援

厚生省・恩賜財團愛育會

一 會期

昭和十五年七月廿日より八月廿日まで

一 會場

高島屋八階催場及ホール

第一部

大パノラマ自由な子供の^天裁す子供部屋又は
児童遊園

第二部

展覽會の総括圖表並に寫真

1. 乳幼児保護の統計圖表
2. 乳幼児保護に関する公共施設(寫真と説明を以

3. 乳幼児保護に関する標語
て展示)

第三部

家庭教育

精神及身体の發育並に躰け

イ 精神の發育

ロ 身体の發育

ハ 子供の躰け

ニ 身体の保護

2. 乳幼児の栄養(實物陳列)

川

見本及器具陳列)

イ 生後半年まで(實物栄養見本及器具陳列)

ロ 二年半まで(半年—一年、一年—一年半及二年半)

ハ 六才まで

ニ 幼推園の辨當(實物を展示して注意事項を示す)

3. 乳幼児の衛生(母親の心得べき点)

イ 豫防醫學(特種病氣)

ロ 病氣の早期發見

ハ 應急手當

○ 家庭用醫療器具材料

○ 家庭の常備藥

ニ 看護法

4. 乳幼児の衣服及び住居

イ 衣服(實物陳列)

○ オムツ

○ 着物

○ 薄着の習慣

○ 寢具

ロ 住居(日常生活)

○ 子供の部屋

（ ）

第四部

1. 子供の社会教育

- 子供の日用品
- 玩具・遊具
- 健康教育の一日（一日を規則正しくおくる習慣を示す）

2. 幼稚園（写真により総合展示説明を付す）

託児所（写真により総合展示説明を付す）

第五部

1. ジオラマ

子供の戶外遊びの歴史の変遷

- 徳川・明治時代
- 現代

附帯施設及び催し

1. 健康相談
2. 栄養相談
3. 衣服住居の相談
4. 栄養講習（実演）
5. 講演と映画

注意

(本審案用紙八二三年以^{陸軍}保存ノモノニ使用スルモノトス)

陸軍

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定



第 二 三 號

房官臣大		課局務主			大臣			件名	番受 號領	政務次官 回付	決裁前 連帶 課名
了結	領受	出提	領受	號番	局長	主務	次官				
昭和 年	昭和 年	昭和 年	昭和 年	銃一第二三號			次官				
	七月五日	昭和二十七年七月五日									
(裁決)行決 覽回後		帶連			局長			參與官	起元廳(課)名	決行(決裁)後 回覽課名	
局長		局長			局長						書記官
長課		長課			課長			主務副官 官房御用掛 計	周ルル件		
長課		長課			主務課員					審案 筆者	

七月八日印

陸軍

陸普副官ヨリ日本大學工學部長茂庭忠次郎へ通牒
七月三日附願出係の首題ノ件ハ時局柄入
職ノ為特ニ會社側ヨリ參觀實習等ヲ希望ス
ルニニアラサレハ許可セヨサン方針ニ付承知相成候

陸普第四六三六號

昭和七年七月五日



三六

東京・神田・駿河臺 日 本 大 學

昭和十五年七月三日

日本大學工學部長 茂庭 忠次郎

陸軍省 福官殿

謹啓 益々御清榮之段奉賀候陳者當校俄俄科二學年學生夏季休暇中工場見
 學旅行致す旨の處時局柄旅行を遠慮致し東京附近の工場見學に代へ直接工
 場宛申込候處車當局の許可有れば差支へ無き旨の返事御座候右の事情に付
 何卒學生に對する實^地教育上及び時局座乘に對する認識向上の爲別紙許可
 願書の工場見學御許可被下度願上候
 尙出來得れば第三類桂度迄見學致度布込に御座候

敬 具





三三九

昭和十五年七月三日

日本大學 學部長 茂庭 忠次郎

陸軍大臣 殿

工場見學許可御願の件

左記工場之見學御許可被下度候

一、見學工場名、日時及び見學學生人員

工場名	見學日時	人員
日本鑄造株式會社	七月十二日 午前十時	四十二名
新潟鐵工場浦田工場	" 午后一時	"
汽車製造株式會社砂町工場	" 十三日 午前十時	"
日立製作所龜戶工場	" 午后一時	"



日本大學 學部

東京・神田・駿河臺 日本大學

東京・神田・駿河臺 日本大學

池貝鐵工所	七月十五日	午前十時	四十二名
鶴見製鐵造船株式會社	"	午后一時	"
大日本機械工業株式會社	"	十六日 午前十時	"
大日本紡績株式會社	"	午后一時	"
陸王內燃株式會社	"	十七日 午前十時	"
東洋精機株式會社	"	午后一時	"
鐵道省鶴見發電所	"	十八日 午前十時	"
三菱重工業橫濱船渠株式會社	"	午后一時	"
東京發動機株式會社	"	十九日 午后一時	"
大島製鋼株式會社	"	二十日 午前十時	"
サクヨン瓦斯機關株式會社	"	午后一時	"

東京・神田・駿河臺 日本大學

一、引率者氏名住所

東京市大森區田園調布三ノ八七ノ三

教 授 廣 田 守 道

東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八九七

助 教 授 保 田 健 夫

東京市中野區昭和通り三ノ十三

助 教 授 小 伸 太 郎

東京市小石川區竹早町二〇

助 教 授 倉 林 良 雄

東京市豊島區千早町三ノ三二ノ二

講 師 中 野 格 致

一、見學學生氏名及び人員

日本大學工學部二學年學生八十四名

秋田	千里	阿部	正	安部	英二	飯田	光夫	池田	成男	石堀	三雄	市來	利男	伊東	香苗	岩井	徹
----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

金子	彦一	康澤	逸三	河内	季夫	喜多	千秋	久保	順三	熊谷	正七	桑	康雄	郡司	敏雄	小島	成吉
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----

高橋	秀晴	武井	良充	田邊	重政	谷口	哲郎	谷山	健三	千葉	曉夫	千葉	芳昭	鶴田	廣文	寺島	英男
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

野田	福五郎	野澤	流磨	長谷川	文三	服部	博	林	秀雄	日比野	亮	藤井	弘敬	三澤	良彦	三谷	捨巳
----	-----	----	----	-----	----	----	---	---	----	-----	---	----	----	----	----	----	----

江口政太郎
大神 正辛
岡部 繁久
尾上 隆治
太田 滿延
大谷 正吉
大庭 崇秀
大坪 可也
大友 正久
大屋 又重
小山 性鹿
梶山富士夫
加藤 高晃

小林 慶次
齋藤 次雄
酒井 喜一
酒井 正男
佐八間義人
佐藤 信弘
佐貫 寛一
坂水 忠
澤藤 宗正
菅野金一郎
鈴木 重徳
關 康彦
園 辛夫

常盤 實
長井 弘文
長島 孝一
中島 達太
中根 秀夫
中部文次郎
中村 茂雄
中村 力
中村 正義
那須 文夫
楠城 偉之
西 守久
西 美哉

宮崎 信成
宮田 金郎
三輪 治雄
本山 松二
山内 五男
山根 太市
六所正太郎
和田 豊治
渡邊 博

小エムスヲ讀ムルニ使ハルル者ノ名目ノ年用券ハナリトシテ三圖惠

東京・神田・駿河臺 日 本 大 學

一、見學學生は八十四名を二組に別ち學生四二名とし引率者一名を附す
一、見學者中には外國人を含まず
以 上

第 二 四 號

保存期限 十年
 決裁指定
 局長
 決行指定

房官臣大		課局務主			大臣委	件名	受領番號	政務次官 回付 決裁前連帶 長官他法既 課名 航空本部 又 決行(決裁)後 回覽課名			
了結	領受	出提	領受	號番					航空許可二回スル件	卷第二四三〇號	起元應(課)名 滿洲航空定林不令化
昭和	昭和	昭和十五年五月二十七日	昭和十五年五月二十五日	防衛甲第二二九號							
年	年	五月二十七日	五月二十五日	日							
(裁決)行決 覽回後		帶連			局長	次官	政務	陸軍			
局長		局長			局長	次官	政務				
長課		長課			課長	高級	副官				
長課		長課			主務課員	主務副官	官房御用掛				
								書記官			
								審案			
								筆記者			

拾年保

七月五日

陸軍

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒（孫崎要案及即修由）

五月

四日

滿洲航空株式會社
日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行

規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

奉天市大外区義光街一段第一五號

滿洲航空株式會社

第三九號

許可證

一行 爲

航空寫真撮影

一、場所（區域）

關東州地内

一、本證有效期間

自昭和十五年五月三十一日
至昭和十五年七月三十一日

一、條 件

1. 本航空實施ニ際シテハ共都度旅順要塞司令部ニ連絡スベシ
2. 必要アリト認めル場合ハ取締ノ夕メ陸軍官憲ヲ搭乘セシムルコト
アリ

昭和十五年五月三十日



陸軍

旅要地第三八號

關東州防禦營造物地帶航空ノ件申請

昭和十五年五月十六日

旅順要塞司令官 井出 宣 時



陸軍大臣 畑 俊 六 殿

五月四日滿洲航空株式會社取締役社長大江亮一出願ニ係ル首題ノ件

小職ニ於テハ左記條件ヲ附シ許可差支無之意見ニ付認可相成度

關東州防禦營造物地帶令第四條及軍機保護法施行規則第五條ニ依
リ申請ス

左記

- 一、許可期間内ニ於テ本航空實施ニ當リテハ其都度豫メ旅順要塞司令
部ニ連絡スヘシ
- 二、旅順要塞司令官ハ必要アリト認ムル場合ハ取締ノ爲職員ヲ搭乘セ

シムルコトアリ

關東憲兵隊司令部經由
新憲警第二一九號

意見 見 書



本籍 東京市目黒區綠ヶ丘二二九七番地
現住所 奉天市大和區義光街二段第十五號

滿洲航空株式會社取締役社長 大江 亮 一

當六十二年

右ノ者別紙ノ通り軍機保護法施行規則第六條ニ基キ航空許可方申請アリ
タルニ付調査シタルニ左記ノ通りニシテ許可可然キモノト思料ス

使用 航空機ノ種類 機體ノ型式 發動機ノ型式 及馬力 器具類	目的、方法	期間、區域、出發 通過、到着地	本籍、住所、職業 氏名、年齢
同 右	同 右	同 右	願書ノ通り

國籍記號 登錄記號	作業者或ハ乗員ノ 住所氏名乗員ノ技 術證明及免狀ノ種類	願書ノ通り
本人及作業者、乗 員ノ經歷	<p>一 願出人大江亮一 陸軍大學校教官飛行第七聯隊長關東軍飛行隊長下 志津飛行學校長等ヲ歷任昭和九年陸軍中將同十一 年待命昭和十一年五月滿洲航空株式會社ニ入社現 在ニ至ル</p> <p>二 乗員及作業者 ノ操縦士丹原芳正 大正五年十二月現役兵トシテ步兵第五十四聯隊 ニ入營大正十一年六月一日短期操縦學生トシテ 所澤陸軍飛行學校ニ分遣昭和八年一月航空兵少 尉ニ任官豫備役ニ編入同月滿洲航空株式會社ニ</p>	同 右

入社昭和十二年十二月召集同十四年四月中尉ニ進級同年六月召集解除現在ニ至ル

2 機關士菊地忠吾

昭和六年一月飛行第六聯隊ニ入隊昭和八年八月三日伍長ニ任官除隊同年八月八日滿洲航空株式會社

入社現在ニ至ル

3 撮影手安達 一

昭和七年一月飛行第五聯隊ニ入隊同九年四月伍長ニ任官除隊トナリ同月滿洲航空株式會社ニ入社同十二年十二月應召同十四年六月曹長ニ進級ノ上召集解除現在ニ至ル

集解除現在ニ至ル

4 撮影手佐藤 巖

昭和十一年三月歩兵第三十六聯隊ニ衛生兵トシテ入隊同十四年三月除隊同年六月滿洲航空株式會社入社現在ニ至ル

其他ノ意見	前科	生活ノ状態及資産	教育ノ程度及思想
ナシ	ナシ	家族ハ妻及子一ノ三名ニシテ不動産約四萬圓ヲ有シ年俸一萬五千圓ニシテ上流ノ生計ヲ營ミアリ	陸軍大學校卒業人格高潔ニシテ國家意識高ク思想穩健ナリ

昭和十五年五月十日

新京憲兵隊長 近藤新八



陸軍大臣 畑 俊六 殿

取扱注意

關東軍司令部經由
旅順要塞司令部經由

陸軍省
壹第 二四三〇號



滿航總第三五二號 爲真第三七四號

康德七年五月四日

本籍 東京市目黒區綠ヶ丘三一九七番地
現住所 奉天市大和區義光街二段第一五號
職業 滿洲航空株式會社取締役社長

大江亮

六十二歲

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

航空許可願

左記ノ通り航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成
度候也

左 記

一 目 的

昭和十五年四月二十日關參一發第九三七號關東軍參謀長依頼別紙
寫ノ通り



① 出發地、通過地及到着地

出發地

通過地

到着地

滿洲國奉天飛行場 普蘭店 關東州大連飛行場

② 撮影ノ爲ノ出發地及航空區域

出發地

航空區域

關東州大連飛行場

關東州旅順北方地區

③ 期間

自昭和十五年五月三十日
至昭和十五年七月卅一日

④ 航空機ノ種類

飛行機

⑤ 機體ノ型式

滿航式一型旅客機

⑥ 發動機ノ型式及馬力

壽一型四八〇馬力



國籍記號、登錄記號

M-1第一三五號

M-1第一三八號

乘員ノ現住地、氏名並ニ乘員ノ技術證明及免狀ノ種類



操縱士

現住地 新京特別市至聖胡同滿航社宅

氏名 丹 原 芳 正

技術證明書 一等飛行機操縱士技術證明書

一等航空士技術證明書

免狀 一等飛行機操縱士免狀

一等航空士免狀

機關士

現住地 佳木斯向陽大街二段地滿航ビル一六號

氏名 菊 地 忠 吾

技術證明書 航空機關士技術證明書

免狀 航空機關士許可狀

滿洲航空株式會社



撮影手

現住地 新京特別市至聖胡同滿航社宅

氏名 安 達 一



撮影手

現住地 新京特別市東高臺北胡同

氏名 佐 藤 巖

ハ其他参考トナルヘキ事項

到着地飛行場ヲ根據トシテ所要箇所ヲ空中寫眞撮影スルモノニ
シテ同撮影ニ關シテハ旅順要塞司令官ニ出願許可ヲ得タル後實
施スルモノトス

關參一發第九三七號

空中寫眞撮影ニ關スル件通牒

昭和十五年四月二十日

關東軍參謀長 飯村

機



滿洲航空株式會社

社長 大江亮一 殿

首題ノ件左記ノ通り撮影相成度依命通牒ス

追而所要經費ハ關東軍ノ負擔トス

左記

方地區	旅順北	地區	地域	梯尺	調製部數	取扱	期限	交付部隊	摘	要
	別紙			一萬五 千分一	ネガ フィルム	軍秘	七月 卅一日	大川部隊	撮影前小林部隊ニ連絡 ノコト	

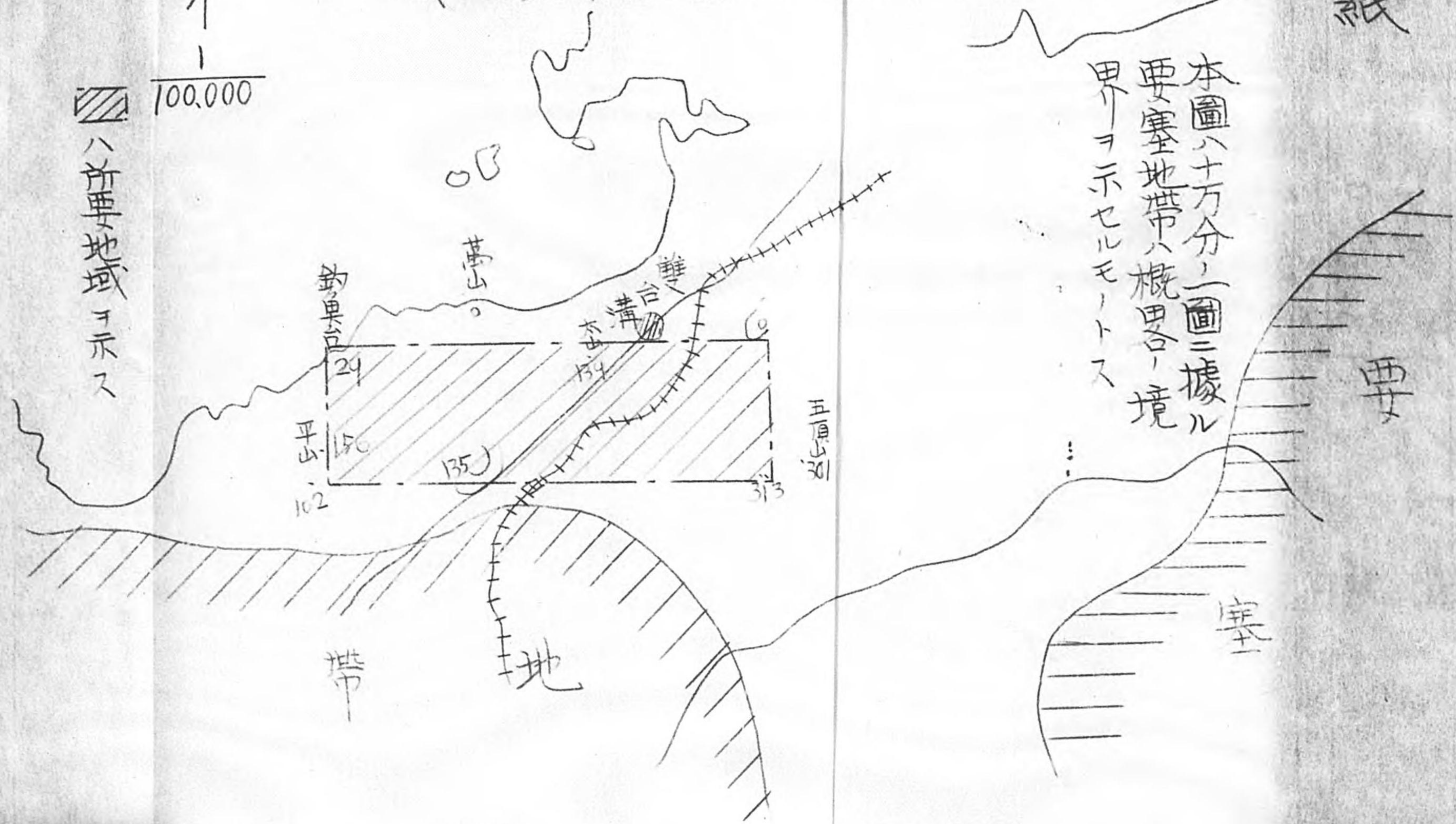
旅順北地方区中空寫眞所要塞地

別紙

本圖八十分分一圖ニ據ル
要塞地帯ハ概略ノ境
界ヲ示セルモトス

100,000

ハ所要塞地帯ヲ示ス



要

塞

帶

地

100,000

第 二 五 號

原

決行指定

局長

決裁指定

十年

保存期限

大臣委		件名		受領番		政務次官 回付 決裁 前連帶 後課名 航空本部
局長		航空許可之南支線		第 二 八 二 四 號		
主務局長		政務次官		起元應(課)名		決行(決裁)後 回覽課名
主務課長		參與官		大日本航空株式會社		
高級副官		書記官				
主務副官 官房御用掛 計		審案 筆記者				
主務課員						
連帶		帶				
局長		局長				
決行(決裁)後 覽回		決行(決裁)後 覽回				
昭和三十五年七月九日		昭和三十五年六月八日				
昭和三十五年七月九日		昭和三十五年六月八日				
昭和三十五年七月九日		昭和三十五年六月八日				

航空本部

航空本部
15.6.11
受付

陸軍省
15.6.10
軍務課

陸普

別官より出缺人へ通条

六月五日附日航運第一〇三號、出缺二條、首題一併、

秋出ノ通条「可」マラシタルニ付依命通条ナシ

追テ本通条ハ五月三十一日附陸普第一五七四號、二添

付シ置カレヌ

陸普第三八六六號

昭和五年六月八日

陸普

別官以下陸軍參謀長、基隆、高枕、澎湖島各要要
司令官、支那派遣軍總參謀長先通符

首題ニ関スル別紙轉送ニ對シ五月三日附陸軍日廿五七日拂
追加許可セラルルニ付依命一通符

通符先

支那派遣軍、台灣軍、基隆、高枕、澎湖島
各要要司令官

陸普第三八六六號

昭和五年六月八日



菅田

勳町憲警第一三六四號

意見書

昭和十五年六月五日勳町憲兵分隊長平林茂樹

勳町憲兵分隊長印

陸軍大臣 畑俊六殿

東京市芝區田村町丁自三之一
大日本航空株式會社

總裁 中川健藏

右者別紙ノ通り軍機保護法施行規則第
五條ニ基キ航空許可方願出ルニ付許
可可然キモノト思料ス

航空 第一〇三號

日航運第一〇三號

昭和十五年六月五日



東京市芝區田村町一丁目三番地一



中川健藏



陸軍大臣 畑 俊六 殿

航空許可願

爰ニ昭和十五年五月三十日 陸普第三五七四號ヲ以テ得候航空許可ニ左記
航空路追可許可賜リ度此段及御願候也

記

一、臺北―盤谷線

(1) 發着地